






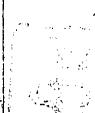


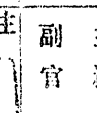
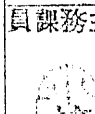






(決)行決 長(部)局		帶 長(部)局		參本 		決行指定 		決裁指定 		保存期限 	
						大 委		受領 陸滿密受第一四四三號		件名 關東軍特種演習參加竝ニ瓦斯雨下研究演習實施ニ關スル件	
						政務次官 委		陸軍航空本部 起元應(課名)		陸軍航空本部	
課長 長		課長 長		補任 		參與官 		高級副官 		主務官 	
				主務課長 		主務副官 		書記官 		主務局長 	
				主務課員 		主務局長 		主務局長 		主務局長 	
				大官房 了結		大官房 昭領受		主務局長 昭領受		主務局長 昭領受	
				昭和 年		昭和 年		昭和 年		昭和 年	
				昭和 年		昭和 年		昭和 年		昭和 年	
				昭和 年		昭和 年		昭和 年		昭和 年	

政務官 同付(決行前)

(決行後)

審案 筆記者

陸

軍

軍事補第八號

十月二日付

副官ヨリ陸軍航空本部總務部長へ通牒

陸密

航一發第一六四四號ヲ以テ申請ニ係ル首題ノ件認可セラレタルニ付

通牒ス

陸密第一五三三號

昭和三年十二月五日

副官ヨリ關東軍參謀長へ通牒

陸密

首題ノ件ニ關シ別冊ノ通規定セラルルニ付

別冊規定ニ基キ滿杉陸軍あり午後ヲシテ當軍特種演習

・此等加セシメラルルニ付通牒ス

陸密第一五三三號

昭和三年十二月五日



陸軍省令第一四四號

關東軍特種演習參加並ニ瓦斯雨下研究演習實施ニ關スル  
件申請

昭和十三年十一月二日

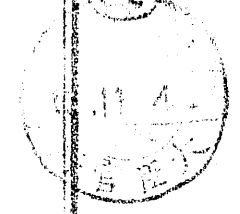
陸軍航空本部長

東條英機

陸軍大臣 板垣征四郎 殿

關東軍特種演習參加並ニ濱松陸軍飛行學校ノ瓦斯雨下研究演習ヲ  
別冊規定ノ通り實施セシメ度ニ付申請ス

追而演習參加將校以下附表第三ノ如ク出張セシメ度ニ付認可相  
成度申添フ



陸軍

(陸出功 京東 五。三十和昭)

1832

# 極秘

六〇部ノ内第一號

昭和十三年度第二次關東軍特種演習參加規定

昭和十三年十月廿九日  
濱松陸軍飛行學校



昭和十三年度第一次關東軍特種演習參加規定目次

第一章	總則	一
第二章	目的及主要研究項目	一
第三章	演習場所及期間	二
第四章	主要資材	二
第五章	日課豫定	三
第六章	準備訓練細部計畫	四
第七章	演習參加部隊ノ編成並ニ任務分擔	四
第八章	演習人員行動豫定	四
第九章	集合及解散	四
第十章	服裝	四
第十一章	經理	五
第十二章	機密保持	五
附表第一	昭和十三年度關東軍特種演習濱校關係豫定表	
附表第二	演習參加部隊ノ編成並ニ任務分擔表	
附表第三	演習參加人員行動豫定表	
別表第一	携行器材表	

- 別表第二 準備訓練細部計畫其ノ一
- 別表第三 準備訓練計畫其ノ二
- 附圖第一 第一目標效力檢知施設要圖
- 附圖第二 第二目標效力檢知施設要圖

## 昭和十三年度關東軍特種演習參加規定

## 第一章 總 則

第一 本規定ハ昭和十三年度第二次關東軍特種演習參加ニ關シ必要ナル諸件ヲ規定ス

第二 本規定以外ノ事項ハ別冊昭和十三年度第二次關東軍特種演習ニ關スル規定ニ據ルモノトス

第三 濱松陸軍飛行學校ヨリ本演習ニ參加スル部隊ノ名稱ヲ增野部隊ト稱呼ス

第四 關東軍特種演習參加部隊左ノ如シ

關 東 軍 研 究 部

關 東 軍 技 術 部

關 東 軍 氣 象 部 ノ 一 部

關 東 軍 迫 撃 聯 隊

陸 軍 科 學 研 究 所 ノ 一 部

陸 軍 習 志 野 學 校 ノ 一 部

濱 松 陸 軍 飛 行 學 校 ノ 一 部

第五 濱松陸軍飛行學校ノ分擔業務左ノ如シ

一 眞毒及擬液雨下ノ計畫並ニ指導

二 雨下ノ基礎諸元ノ測定及審査

三 雨下裝備

四 準備訓練間ニ於ケル審査施設及審査

第二章 目的及主要研究項目

第六 本演習ノ目的ハ關東軍特種演習ニ於ケル高空瓦斯雨下ノ效力試驗實

施ノ計畫及指導ヲ援助スルト共ニ準備訓練ノ機會ヲ利用シテ眞毒雨下ノ基礎諸元ヲ補綴研究シ且瓦斯化網ヲ探究シ以テ本次演習ノ目的ヲ達成スルニ遺憾ナカラシメ併セテ航空部隊瓦斯用法ニ資スルニ在リ

第七 本演習ノ主ナル研究項目左ノ如シ

一 高度及雨下定數ニ應ズル眞毒雨下網（正側風及風床）

1 高度及雨下定數ニ應ズル有效撒毒圈ノ限界

2 眞毒ト擬液トノ關係

3 高度及雨下定數ニ應ズル回收率

二 昭和十二年三方原ニ於ケル眞毒雨下ノ成績ニ對スル基礎諸元ノ補綴



研究

1 豫期命中點

2 雨下中心

3 基準滴粒

4 流出時間

5 落下時間等

霧狀及氣狀瓦斯化圈

航空瓦斯攻撃資材ニ關スル研究

附 從來研究進捗ノ大要

一 從來攻撃ノ見地ヨリ眞毒ヲ以テ研究ヲ實施セル雨下ノ高度、雨下風左ノ如ク雨

下法ハ側風單雨下トス

八二、高度

六・六<sup>米</sup>

九六、高度

一・七

二三三、高度

七・六

八〇、高度

一〇・四

但シ撥液ニ於テハ高度一〇〇〇乃至一五〇〇米ノ記録ヲ有ス

二 審査上着色眞毒下擬液トヲ同時ニ雨下スルモ混淆セザル實驗ヲ有ス  
 三 擬液ヲ用フル編隊雨下ハ主トシテ三機ヲ以テ研究セリ

四 眞毒雨下ノ基礎諸元ハ第一項ノ成果ニ依リ左記諸點ニツキ捕捉シアルモ三〇〇  
 米以上ノ高度ヨリスル實驗ナキヲ以テ正確ナル判定ヲ下スニ至リアラズ

1 豫期命中點

2 側風單雨下ノ雨下中心

3 眞毒ノ雨下中心附近ニ落達スル液滴（基準滴粒）ノ中徑竝ニ同擬液ノ中徑

4 眞毒雨下一九〇<sup>分</sup>時附近ニ於ケル現制「カニ」ノ流出時間

5 基準滴粒ノ落下時間

6 霧狀及氣狀瓦斯到達範圍

### 第三章 演習場所及期間

第八場 所 海拉爾附近、雨下地域二ヶ所

第九期 日 自十一月廿六日至十二月四日 準備訓練

至十二月五日 至十二月七日 編隊雨下演習

第十 濱校關係豫定表附表第一ノ如シ

### 第四章 主要資材

第十一 安藤部隊ニ於テ準備スル主要資材左ノ如シ

- 一 飛行機（雨下裝備、八八二型眼鏡、小航空寫眞機共）  
 自十一月廿六日至十二月二日 双輕二型 一機  
 十二月三日 同 右 二機  
 自十二月 四日至十二月七日 同 右 五機
- 二 乗用自動車 二（運轉手共） 自動貨車 三（運轉手共）
- 第十二 濱松陸軍飛行學校ニ於テ準備スル主要資材左ノ如シ
- 一 雨下器 四
- 二 其ノ他雨下諸元測定用器材 一式
- 三 審査器材 一式
- 四 雨下風測定器材 一式
- 五 パラフィン檢知板 約五〇〇〇
- ズーダン檢知板 約一〇〇〇〇
- 擬液メチルアルコール 約八〇〇〇
- 六 携行器材表別表第一ノ如シ
- 七 效力檢知施設要圖附圖第一、第二ノ如シ

第十三 準備訓練期間ヲ通シ所要毒量ハ關東軍ニ於テ準備シ擬液ハ濱松陸軍飛行學校ニ於テ準備ス、又着色染料ハ陸軍科學研究所ニ於テ準備ス  
ルモノトス

第十四 飛行器材ノ梱包ハ概ネ十月廿九日迄ニ完成シ荷造明細表ト共ニ第七格納庫ニ於テ宰領者神田火工曹長ニ交付シ卅一日宰領者ノ點檢ニ立會フモノトス

第五章 日課豫定

第十五 日課豫定左表ノ如シ

準備訓練					演習區分
第一日	第二日	第三日	第四日	第五日	期日
廿八日	廿九日	三十日	十一月一日	二日	
爆又ハ偵	一機	一機	双輕二型	一機	機數
三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	八〇〇	高度(米)
1-2	2-3	2-3	2-3	3-4	豫定雨下(米)
(三)	(三一)	(三二)	(三三)	(三四)	裝備雨下器數
正					風
全下雨器數ヲ同時間					下法
下雨モノノスト					

考	備	習 演 本			
		第七日	第八日		
<p>一 第二飛行集團秋季演習ノ關係上十一月三十日以前ノ機種ハ爆(双輕二型ニ限定セズ)又ハ偵一機トシ操縦者ハ要スレバ増野部隊ヨリ之ヲ出ス</p> <p>二 準備訓練ノ期間短縮ノ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ準備教育ノ方法、高度及雨下法等ヲ適宜變更ス</p> <p>三 基礎諸元ノ研究ヲ豫定ノ如ク實施シ得ザル場合ニ於テハ本演習終了後引續キ實施スルコトアリ</p> <p>四 (一) 内ハ擬液雨下器數トス</p> <p>五 眞毒ハ赤色ニ、擬液ハ青色ニ着色スルモノトス</p> <p>六 雨下風ハ海拉爾ニ於ケル當時ノ平均トス</p> <p>七 準備訓練期間及本演習終了後引續キ實施スル場合ノ審査ニ於テハ習校、科研及現地部隊ノ援助ヲ受クルモノトス</p>	<p>第六日</p> <p>三日</p> <p>二 双輕二型機</p> <p>一〇〇〇</p> <p>4-5</p> <p>(五)</p> <p>風床</p>	<p>第七日</p> <p>四日</p> <p>五 双輕二型機</p> <p>三〇〇</p> <p>1-2</p> <p>(一)</p> <p>正側風</p>	<p>第八日</p> <p>五日</p> <p>同 右</p> <p>一〇〇〇</p> <p>4-5</p> <p>各機(四)</p> <p>準備訓練ノ成績ニ依リ決定(正側風)</p>	<p>第九日</p> <p>六日</p> <p>同 右</p> <p>一〇〇〇</p> <p>4-5</p> <p>同 右</p>	<p>第十日</p> <p>七日</p> <p>同 右</p> <p>一五〇〇</p> <p>4-5</p> <p>同 右</p>

## 第六章 準備訓練細部計畫

第十六 準備訓練細部計畫別表第二、第三ノ如シ

## 第七章 演習參加部隊ノ編成並ニ任務分擔

第十七 演習參加部隊ノ編成並ニ任務分擔附表第二ノ如シ

## 第八章 演習人員行動豫定

第十八 演習人員行動豫定附表第三ノ如シ

## 第九章 集合及解散

第十九 本演習ノ集合解散ハ營外者ハ單獨旅行トス、但シ宰領者ハ十一月

四日以後輸送指揮官塩田大尉ノ區署ヲ受ケ集合地ニ到ルモノトス

第二十 演習參加將校以下ノ出發ハ附表第三ノ如ク廿四日現地ニ集合シ演

習指揮官ノ指揮下ニ入ルモノトス

第二十一 解散ニ關シテハ別ニ定ム

## 第十章 服 裝

第二十二 將校以下軍裝トシ略綬携行、略帽ヲ使用スルモノトス

第二十三 判任文官、雇員、工員、筆生ハ制服トシ演習地ニ於ケル服裝ニ

就テハ別ニ示ス

第二十四 本演習間ニ於ケル將校以下防寒具ノ交付返納物件左ノ如シ

宰領者 大連

單獨旅行者ハ海拉爾

第二十五 各人携行品

凍傷膏、クレオソート、其ノ他

第二十六 判任文官以下増野部隊タルノ標識ハ別ニ交付シ左腕ニ附スルモノトス

第十一章 經理

第二十七 單獨旅行者ノ旅費ハ内地旅行中ハ陸軍旅費規則第三表、朝鮮及

滿洲國內ハ夫々朝鮮及關東軍ノ規定ニ依ル

第二十八 演習地ニ於ケル宿營及給養ハ關東軍研究演習ニ關スル規定ニ依

ル

第二十九 本演習所要經費ハ關東軍ノ負擔トス、但シ參加人員中將校三、

技師一、准士官一、技手一、下士官三、雇員三、工員二〇以外ニ對ス

五

ル諸給與ニ要スル經費ハ濱松陸軍飛行學校ノ負擔トス

第十二章 機密保持

第三十 機密保持ニ關シテハ昭和十三年度第二次關東軍特種演習ニ據ル





附表第二

演習参加部隊ノ編成並ニ任務分擔表

任 務	將 校 (准 尉)	下 士 官 (雇 員)	工 員
演習指揮官	小 川 中 佐 (山二郎)		
研究並ニ審査員	岡 田 少 佐 (猛太郎) 櫻 井 少 佐 (茂平) 許 斐 少 佐 (守吉) 安 部 大 尉 (勇雄) 瀨 美 大 尉 (老) 高 木 雇 員 北 島 雇 員	河 村 曹 長 高 木 雇 員	二〇 (審査班一六 通信班一四) 傳 令 市 川 恒 夫
庶務兼施設掛	岡 田 少 佐 (常雄) 中 村 少 尉 高 木 技 師 鈴 木 少 尉	上 中 地 藏 曹 長 橋 本 軍 曹 浅 野 主 計 軍 曹 和 久 田 雇 員	傳 令 山 田 虎 男
資 材 掛	松 崎 少 尉 (原) 福 島 准 尉	二ッ 橋 雇 員 神 田 火 工 曹 長	ケ二 審査班 爆 炸 班 氣 象 班 寫 真 班 被 服 掛 二
被 服 掛		岡 村 經 工 曹 長	土 屋 博 文 (経 理 室) 大 場 勇 (飛 行 機 班)
装 備 掛		神 田 火 工 曹 長 齋 藤 技 手	三 (爆 炸 掛)
寫 真 掛 氣 象 掛		鈴 木 軍 曹 藤 江 雇 員	三 (寫 真 班 二 氣 象 班 一)
備 考	分 任 官 八 岡 田 少 佐 ト ス 計 一 一 一 三 三 〇		



別表第一

携行器材表														
象 器 材					被 服									
測秒時計	測風氣球箱	測風計算器	一號水素罐	減壓弁	大浮力計	胡板付羅針(脚共)	風向風速計(脚共)	測風經緯儀(脚共)	全防具	防毒被服	九五式防毒面	九一式防毒面	名 稱	員 數
三	二	一組	三本	一組	一組	一組	一組	一組	三	二七	二二	一四		
爆撃裝備器材					象 器 材									
測秒時計	擬液補給機	投下筒	一カニ	特種眼鏡	携帶電燈	折疊式机	野外用腰掛	手入工具	通風乾濕計(アルコール)	自記氣象計	百葉箱	乾濕計(アルコール)	名 稱	員 數
四五	一	五	五	一	二	一	二個	一組	一組	一	一	一組		

爆撃装置器材										爆撃審査器材									
乙型電磁器 双輕甲	乙型電磁器 九四偵用「カニ」懸吊用	甲型電磁器 「カニ」懸吊用	航路計算盤	安全針	裝備工具	電纜	染料 (赤、青)	天秤	漏斗	立枱	試投下傘	發煙彈	彈着觀測鏡	爆撃檢定器	命令器	中被覆線	小被覆線		
各三〇	一〇	一〇	一	若干	一式	若干	若干	一組	二	一	六〇	四〇	二	三	二	二五	一〇		
爆撃審査器材																			
中線巻匡	繰出線掛	大革胴亂	紐付小鐵線鈹	六「ボルト」蓄電池	九二式電話器	百米巻尺	百米測繩	五十米巻尺	通信器具箱	野外用組立机	野外用製圖板	野外用組立椅子	手旗	小型天幕	基本目標旗 (等共)	十字鍬	測秒時計		
五	二	二	二	一四	一五	一	一四	一	一	一	一	一	一〇	一	一五	五	六		

爆撃機査察材																	
竹(約二五米)	オコナイト線	バラフイン線	紙綴器	掛矢	杭	航跡査察図(現地製作)	二〇吋計算尺	計算器	對数表	分度器	全圖分度盤	目標図	長定規	三角定規	製図具	三十厘尺	アラニメーター
一〇〇本	五〇〇米	五〇〇米	一	二	五〇	一	一	一	一	一	一	五〇枚	一	二	一	一〇	二
爆撃機査察材						通信器材											
六ラフイン紙檢知板	洋白紙檢知板	一スーダン檢知板	赤雨板	標示旗	座標札	標示旗臺	防毒墨型	白布板	爆撃布板	其他演習用消耗品	對空二號發線受信機	對空二號空中線材料	對空二號電柱	九二式電話機	九二式小被覆線	九二式小線巻匡	線出線掛
五〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇〇	三三	五〇〇二	五〇〇二	五〇〇二	四五	三〇	一	若干	一組	一組	一	四	二〇	二	二

事務用消耗品					器具材料					通信器具							
紙綴器	メスリ板	肉池	亜鉛板	三角定規	騰寫機	藥品(現像、定着)	感光材料	燒杯	天秤	閃光器	現像器具	十六枚撮影機	手持寫真機	通信用消耗品	大革 扇 乱	乾電池 豫備	小絡車 櫃
一	二	一	二	一	一	若干	若干	一	一組	一	一組	一組	一組	若干	二	若干	三

事務用器具材料消耗品																	
大紅糊	鉛筆	ロソク	墨水	インク	吸水紙	洋紙	和紙	起案紙	水筆	綴紐	二重封筒	一重封筒	洋白紙	厚表紙	騰寫用原紙	書類	算盤
一五	六打	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇	二〇	一〇〇	三〇〇	一五〇〇	四〇〇〇	一〇〇	五〇〇	二	一



事務用器材料及消耗品							
鉛筆	紙製荷札	永久スタンプ臺	謄寫用インク	通信紙	通信封筒	複寫紙	雑記帳
一〇	五〇〇	四	三	四〇	二〇〇	二五〇	一〇
事務用器材料及消耗品							
複寫葉書、便箋	畫鋏	ゴムクリップ	電報用紙	小包用荷造絲	ハトロン紙	ゴムバンド	方眼紙
各一	三	一〇	六	二卷	二〇	一個	五〇〇
							紙拵
							ホツチクス針
							五〇〇〇〇

特種演習機行器材梱包上ノ注意

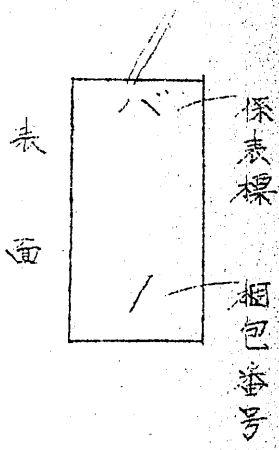
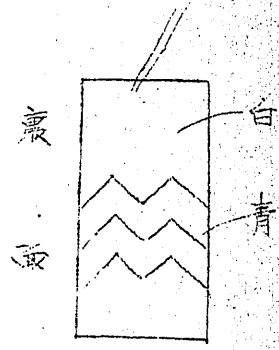
一 器材ノ梱包ハ特ニ嚴シク内装送ノ際互破損一カラシムル如クスルモノトス

二 新札ハ而製ノモノヨ一梱ニ付ニ枚回蓋シ送付者受領者部隊名及氏位ヲ記入スルコトナク左記色別ニヨリ各部(係)毎ニ一連ノ送付シ別ニ其番別ノ梱包内容ヲ明瞭ニ記入シクル所造明細書ヲ器材掌領者ニ差出スモノトス



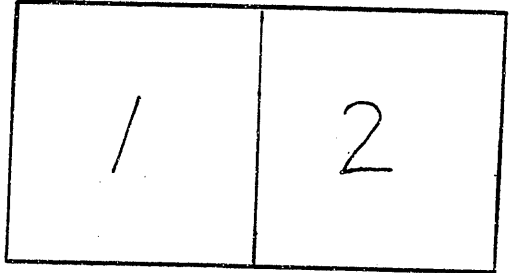

三前頂所造明細書、様式左ノ如シ(半紙界紙)

	荷	明	細	表	証
毎	日	数量	容積(容米)	價	摘要
號					
區					



華 | ソ | カ | シ | キ | バ  
 | | | | | |  
 急務 | 通 | 寫 | 爆 | 氣 | 爆  
 終 | 信 | 真 | 擊 | 象 | 擊  
 理 | 班 | 班 | 査 | 査 | 装  
 | | | | | |  
 班 | 班 | 班 | 班 | 班 | 法

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>8 年 11 月 13 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	



考備	準 基 動			行 及 成 編				隊 部		網 要 施				
	(尉准木幹 師技木高 佐少田岡長)			班 定 検 元 諸				警戒掛	救護班	隊 部 行 飛	統 監	區 分		
	消毒機	掛取被	班 定 測 間 時 下 蕊	班 定 測 間 時 下 蕊	班 定 測 間 時 下 蕊	班 定 測 間 時 下 蕊	班 定 測 間 時 下 蕊						員 究 研 導 指	編 成
一 現地ニ於ケル雨下地域ノ以テ是ニ援助部隊ノ打合ニ依リ多少ノ變更スルモトアリ	下士官以下三名 (積校ノ分)	下士官以下五名 (積校ノ分)	下士官以下四十名 (現地ノ應援ヲ受ク)	下士官以下五名	長以下八名	(現地ノ應援ヲ受ク)	ズーゲン検知板 パラフィン検知板 下士官以下五名 (二班)	現地部隊並ニ習 校ニ依頼スルモノトス	岡田少佐 許斐少佐 高木技師 松崎少尉 將校 (安藤 部隊) 將校 (参加飛行部隊) 横山少佐 名(習校) 名(科研) 名(平野) (明石)	安藤部隊ヨリ編成	一 午前九時三十分迄ニ本隊準備ヲ完了ス 二 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲモリトシテ其ノ位置ヲ指示スルモノトス 三 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 四 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 五 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 六 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 七 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 八 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 九 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 十 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス	一 流石ノ對ニ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 二 進入方位ノ決定並ニ風向ニ依リテ之ヲ指示スルモノトス 三 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 四 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 五 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 六 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 七 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 八 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 九 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 十 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス		
	被取ノ出納ヲ行フ 消毒ニ関シテハ現地部隊並ニ習校ニ依頼スルモノトス	所命ノ時間 一 主トシテ雨下風ノ測定ヲ行フ(積校) 二 所命箇所ノ地上寫眞、活動寫眞(積校)	一 雨下開始前人員ノ配置ヲ終了ス 二 人員配置、要領左ノ如キモ雨下高度多ク定數ニ依リ更 ニ示ス 三 測定ハ雨下開始後十分迄トスルモノトシテ當リ不 二 班長ノ行動ヲ基準トシテハク最長距離ニヨリ前進消毒所ニ 集合シ應急消毒ヲ急ス 三 自動車ニテ完全消毒所ニ至リ消毒ス 四 消毒後自動車ニテ検知板検査班長ノ下ニ其指示ヲ 受ケ検知板収集ニ依リテス	一 指示スル觀測所ニ於テ雨下ニ對スル所定ノ觀測ヲ実施ス 二 班長ノ指示ニ依リ雨後主カハ檢知板検査班長ノ指揮ニ依リ 作業ニ従事ス	一 指示スル觀測所ニ於テ雨下ニ對スル所定ノ觀測ヲ実施ス 二 班長ノ指示ニ依リ雨後主カハ檢知板検査班長ノ指揮ニ依リ 作業ニ従事ス	一 指示スル觀測所ニ於テ雨下ニ對スル所定ノ觀測ヲ実施ス 二 班長ノ指示ニ依リ雨後主カハ檢知板検査班長ノ指揮ニ依リ 作業ニ従事ス	一 檢知板ハ凡テ乾燥ヲ待テテ列毎作業半約一左トシニ。枚毎 ニ束ネテ収集ス 二 収集順序ハ先ツズーゲン檢知板ヲ集メタル後パラフィン檢 知板ヲ収集ス 三 集積所及其ノ区分ハ別ニ標示ス	一 檢知板検査班長ノ指揮ニ依リ 作業ニ従事ス	一 全般統制) (機上作業) (基礎諸心審査) (添材)	一 午前九時三十分迄ニ本隊準備ヲ完了ス 二 偵察機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 三 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 四 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 五 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 六 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 七 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 八 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 九 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス 十 飛行機ニ依リ雨下地域ノ位置ヲ指示スルモノトス	一 約二十分 二 檢知板検査班長ニ準ズ	一 約十分 二 左	一 完防ノ上更ニ覆 ヲ用フ 二 各自妙時計ヲ 携行ス 三 履ハ毎日交換ス 四 被服ノ使用頻 クハ更ニ示ス	一 一式(積校) 二 約四(積校) (積校) (習校) (科研) (平野) (明石)





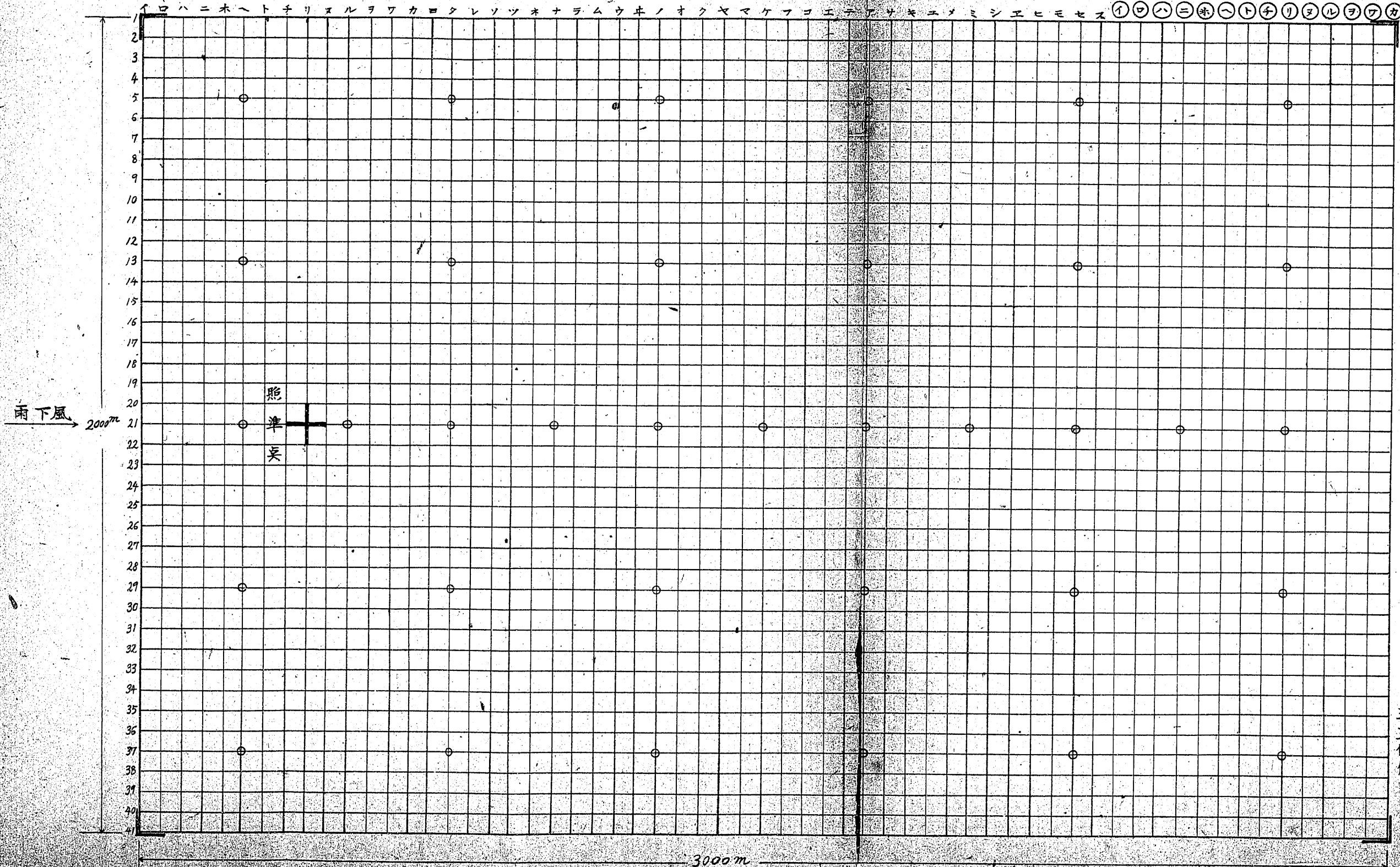


1858

# 第二目標 效力檢知施設要圖 $\frac{1}{2000}$

(濱 校)

附圖第二



## 摘要

- 一 十八枚板の照準点ニシテ風向ヨリ移動
  - 二 五十米方眼各交点ニ檢知板ヲ配置ス
  - 三 〇印ハ落下時間測定位置トス
- パスダシIII檢知板  
 洋白紙檢知板
 
 各二五〇一枚  
 三五個所